

体験グローバル 「広島大学大学院国際協力研究科 藤原章正先生」講演のアンケート結果

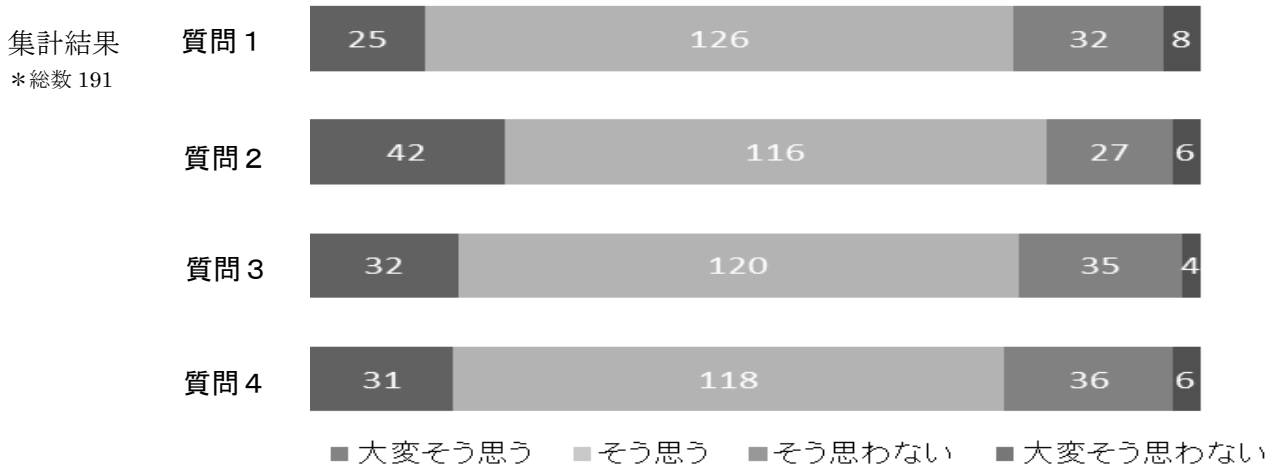
2015年5月1日7時間目に4年生を対象に、広島大学大学院国際協力研究科、研究科長の藤原章正先生に来ていただき、講演していただきました。

講演では、7割が留学生で構成される広島大学大学院国際協力研究科で行われている研究や、国籍の違う学生同士の交流について紹介をしてくださったり、藤原先生の専門分野である交通計画学から、考えの異なる立場の人たちが合意を形成する上で大切なことを説明してくださったりしました。講演の最後には、グローバル化する世界の中で生きていく生徒に向けて「深い好奇心と、適度な楽天性をもって」や「日々の何気ない積み重ねが、自分の可能性や世界を広げる」というメッセージを伝えてくださいました。



以下にこの講演を受けた生徒のアンケート結果をまとめました。

| 質問項目 | |
|---|--|
| 1. 今日の講演は興味・関心をもって聞くことができましたか。 | |
| 2. 今日の講演は新しい考え方や視点が学べるものでしたか。 | |
| 3. 今日の講演から物事を深く考えるために大切なことが学べたと思いますか。 | |
| 4. 今日の講演を通してこれからの授業や生活で生かしたいことが得られましたか。 | |



自由記述① 「グローバル化」についてどのようなことを考えていますか。また、自分の将来と「グローバル化」を関連させて考えたことはありますか

- 僕が社会人になるころには、さらにグローバル化が進んでいると思います。グローバル化で国境を越えて、人々が結びつくので、相手の文化を考え尊重していくことが大切だと思います。逆に自分の行動一つ一つが相手にとっては日本人を代表する行動になるので、自分の言動に責任をもつ必要が出てくると思います。
- 考え方の「グローバル化」はとても大切だと思う。将来世界がよりよくなるように、医学や工学の分野、あるいはネットワークの中で貢献できることはないか考えていきたい。
- 私は将来、医学の道に進みたいと決めている。医者はどこにでも必要な人材だし、多くの人を助けたいから医学からみても「グローバル化」は大切だと思う。知識や技術を伝え合うためには、お互いを理解し合うことは欠かせないと思う。
- 「グローバル化」と聞いて、世界へ発信していくことを考えます。私は将来、安全な食を守るための仕事をしたいと思っている。安全であることのよさ、利点は世界で共通して認められる観点だと思う。
- 自分もいつか「世界のために働いている」と実感するときが来るかもしれないと考えることがあります。将来はいろんな国に行って、いろんな文化に触れてみたい。そして、もっと英語を話せるようになって会話を通じていろんな視点から物事を考えられるようになりたい。
- どんどん世界との交流が深まっていて「グローバル化」が進んでいると思う。自分たちも「グローバル化」についてしっかりと考え、視点を世界に向けていくということが大切だと思う。物事の考え方などを将来に向けてこのSGHの授業で学んでいきたい。
- 自分の将来の夢の仕事は、身近にグローバルを感じる職種だと思うので、違った考えなどをもつ人たちとふれあうチャンスも多いと思うけど、それと同時に壁も多く感じると思います。だから合意形成の方法をもっと知りたいと思いました。
- 今後、日本が発展していくのに重要なことだと思う。自分が大人になるころにはほとんどの企業が何らかの形で外国と関わっている時代だと思うので、相手の価値観を理解できるようになりたい。

- 私は将来、英語を話せるようになって海外に行って仕事をしたいと考えています。だから「グローバル化」とは海外へ自分たちが行ったり、人材を受け入れたりすることで共に技術を向上させることでもあると思う。
- 地球規模で物事を考えたり、事柄を解決しようとする時には、地球規模で起こっていることや世界各地で起こっていることを知る必要があり、グローバル化には新聞を読んだり、ニュースを見たりして相手の立場になって考えることが必要だと思う。また、現地の人に直接話を聞くのが一番だけれど、それができない時でも、相手が言いたいことを想像できるようになることも必要だと思う。
- “Think Globally Act Locally”とあるように世界規模で考え、しかし一人の人間としては小さな身の回りのことをコツコツするのが大事だと思います。僕も将来、国際的に活動するかもしれないのでSGHで学んだことを活かしていきたい。
- グローバル化が進んだ世界で必要なのは「異文化を理解する能力」だと思います。そして、この能力を身につけるには、異文化の相手と議論できるようにコミュニケーション能力と、日本人としてのアイデンティティをしっかりと持つことが大切だと思います。だから附属福山での英語やこの「体験グローバル」の授業をしっかりと受け、これらの能力をしっかりと身につけたい。

自由記述② 講演から学んだこと、これからの授業や生活の中でも考えていきたいと思ったことを記述してください。

- いろいろな国の人たちが集まる場では、様々な人が自己主張することがあるので相手のことも考えることがより必要なのだと思う。それは僕たちの生活においても同じことで、これからは、他の国の人とも普段から接していかなければいけない時代だと思う。
- 藤原先生がおっしゃった「ゆるやかな境界線」という考え方に興味をもちました。この考え方は、他人・他のグループなどと協力して物事を行うために重要な考え方だと思う。だから、そのようなときにはこの考え方を実践したい。
- 「深い好奇心と、適度な楽天性をもって」という言葉が特に印象に残りました。「深い好奇心」だけではなく、“適度な楽天性”も”というのはグローバル化に対応していくためにはとても大切な考え方だったのでこれからの生活の中でも意識していきたい。
- 「深い好奇心と、適度な楽天性をもって」という言葉を心に刻んでおきたいと思いました。私は昔から好奇心旺盛と言われます。何でもやってみたいし、時間があれば何か新しいことにチャレンジしています。しかし、それと同時に私はすぐにあきらめてしまうところがあり、長続きしません。先生のお話を聞いて、好奇心があることを長所ととらえて、これからも様々なことに挑戦していきたい。
- 身近なジレンマについてどのように解決していけばいいのか、具体的な例とその背後にある問題が分かった。「境界線」をめぐる問題についての話も興味深かった。これからの世界を生きていく上で大切な考え方だと思う。いろいろな考え方を自分も身につけていきたい。
- 小さなことを積み重ねていくことの大切さが改めて分かった。毎日コツコツ頑張れば、意外とすごいことが達成できるんだと思った。ジレンマの問題を聞いて、あまり考えることはなかったけれど、確かに誰が悪いかわからないこともあることを実感した。自分で考えて時と場合に応じて判断できるようになりたい。
- 「合意形成」は異国間でも難点であるが、私の身の周りでも同じことが言えると思う。互いに譲れない何かひとつでもある限り、もっと言えば人と人がそれぞれに違いがある限り、何度も「合意形成」が必要とされ、それが行われていると思う。日本と他国との問題点はニュースでも取り上げられているが、原因は身の周りの対立と変わらない。「合意形成」を上手にできるようになりたい。
- ジレンマの問題や利他的行動についての話がとても興味深かったです。なぜ、その行為をするのかよく分からなくても、人間は相手のことを思いやり行動することがある。それが途上国 vs 先進国との間の話でも活かされればと思うけれど、難しい現実もわかった。自分の立場を超えて物事を考えることができるようになりたい。
- 専門的な知識だけではなく、その知識をたくさんの人々と共有したり、使う時に合意形成や国際社会の常識やコミュニケーション能力が必要になってきたりすることが分かりました。現在、問題となっているものの多くは、1つの要因からなるものではなく多くの要因があって起こるので自分自身の考えだけで固まっているだけでは何も解決することはできないと思いました。「相手の立場を考える」は合意形成でも大事な考え方だと分かったので、普段の生活から意識していきたい。
- 世界では様々な問題が起こっており、自分たちも含めた一人ひとりがその問題について考えるべきだということを学んだ。それらを考えることによって直接解決とまでいかななくても、「自分の意見を言える」ということが大切だと感じた。これからのSGHの授業を通して様々な問題を考えていく機会にしたい。
- 「交通計画学」という言葉を今回の講演で初めて聞いた。昔からこのような分野には少し興味があったので、自分の将来についても考えつつ話を聞くことができた。将来、この講演で学んだことを役立てたいと思った。